

公益社団法人 大津市シルバー人材センター
令和4年度事業報告

1 はじめに

令和4年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻に端を発したエネルギーや穀物価格の高騰と世界的なインフレに加え、日本経済の停滞と日米金利差の拡大による急激な円安の進行による諸物価の大幅な上昇など、国際情勢や経済面で大きな変化があった1年でした。

また、4月には知床半島沖で観光船が沈没し、乗客乗員26名全員が死亡・行方不明となったほか、7月には安部晋三元首相が凶弾に倒れ、この事件をきっかけに、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）による高額献金や霊感商法、政治家とのつながりの問題が社会の大きな関心を集めました。

新型コロナウイルス感染症については、感染力の強いオミクロン変異株「BA.5株」が流行し、8月には1日に約26万人の過去最多の感染者数が確認されました。しかし一方で、ワクチン接種が進み、重症化リスクや致死率が大きく低下したことから、「ウイズコロナ」に向けた動きが加速し、10月には入国者数の制限が撤廃され、外国人の個人旅行も解禁されました。また、令和5年1月中旬以降、感染者数が大幅に減少に転じたことなどから、政府では3月13日以降のマスクの着用については、個人の判断を基本とすることとされました。こうした動きの中、当センターでは、前年度に引き続き利用者の皆様に御迷惑をお掛けするといった事態には至りませんでした。これも偏に、会員お一人おひとりが感染を防止するという高い意識を継続的に堅持頂き、感染予防対策をしっかりとっていただいた結果であると感謝申し上げます。

このような中、令和4年度の事業実績は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復しつつあった令和3年度実績と比べて、僅かながら減少（△3,224千円、△0.6%）するという結果となりました。

事業別では、公益目的事業で0.4%の減額、収益事業で2.6%の減額、派遣事業については0.1%の増額でしたが、有給休暇の取得が促進され、手数料は2.6%の減額となりました。公益目的事業の内訳をみると、除草や屋外清掃で48件（4,906千円）の増、くらしの便利屋が61件（316千円）の増となったものの、大規模清掃の契約が継続できなかったことが影響し、屋内清掃で1件の減（△2,697千円）となりました。これまで順調に実績を伸ばしてきた剪定も17件の減（△2,688千円）、その他の事業も、前年度並みか前年度実績を下回ることとなり、全体実績を押し下げました。事業の拡大に向けて、技能を有する後継者の養成のほか、会員個人々の希望に見合った受託事業の開拓などが課題であると考えています。

訪問介護事業では、要介護度の高い利用者の施設入所が重なったことなどにより、69件の減（△1,945千円）となりました。しかしながら、超高齢社会は今後も進行することは明らかであり、訪問介護のニーズは間違いなくあることから、事務局体制の充実やヘルパーの養成等に努め、市民の皆さんのニー

ズにしっかりと応えていく必要があります。

令和4年度決算は、公益目的事業は5,321千円の赤字を計上しました。法人会計の赤字1,792千円と合わせると7,113千円の赤字となり、前年度決算より赤字額は1,525千円膨らみました。一方、収益事業は8,166千円の黒字でしたが、前年度と比較すると黒字額は1,885千円縮小しました。税引き後の全体決算では278千円の黒字でしたが、前年度より黒字額は3,191千円縮小しました。これは、事業収益が全体的に伸び悩んだことが主な要因と考えています。光熱水料費をはじめとする固定経費が上昇を続ける中、まずは公益目的事業収益の増大を図る取組みに力を注ぎ、会員皆様の就業機会の確保に努めていくことが大切と考えています。

2 センター事業の実施について

当センターは、令和4年度、公益目的事業として「請負事業」、「労働者派遣事業」および「職業紹介事業」、収益事業として「訪問介護事業」および「介護予防事業（総合事業）」を行いました。また、(公社)滋賀県シルバー人材センター連合会からの委託を受け「高齢者活躍人材確保育成事業」を行いました。

(1) 公益目的事業

① 請負事業

令和4年度の公益事業は、全般的に就業延人員数・契約金額ともに低調な結果に終わりました。除草作業の契約金額は、前年度比2,405千円の増額となりました。一方、清掃作業は、病院等新たな契約があったものの、予定していた大規模の屋内清掃の契約が取れなかったこと等から、前年度比195千円の減額となりました。剪定作業も2,688千円の減額となりました。放置自転車撤去啓発やカート整理も前年を下

区 分	契約金額	就業延人員
除 草	93,752千円	10,146人
清 掃	68,451千円	16,348人
剪 定	70,476千円	6,020人
放置自転車撤去啓発	6,600千円	1,585人
カート整理	8,495千円	1,823人
表装・表具	3,193千円	423人
筆 耕	5,005千円	2,415人
管 理	14,965千円	5,667人
大工・左官・塗装	3,777千円	201人
生活支援等サービス	26,341千円	10,637人
くらしの便利屋	1,027千円	462人
その他	14,834千円	10,927人
合 計	316,916千円	66,654人

(詳細は令和4年度事業実績一覧参照)

回りましたが、放置自転車の撤去啓発は、施策として一定の成果が認められ計画的に契約金額が減少したことが主な理由です。表装表具と筆耕は前年度並みでした。管理や大工・左官・塗装は契約金額が減少しました。子育て支援などを含む生活支援等サービスは、室内の対面サービスであることから、新型コロナウイルス感染症の影響を克服しきれず、対前年比3.2%程度の減額

となりました。くらしの便利屋は61件、316千円の増額となりました。

② 労働者派遣事業

令和4年度労働者派遣の受注件数は11件減少しましたが、契約金額では、102千円の微増となりました。大規模小売店への派遣とともに、宿泊施設への派遣、発掘調査および事務補助などへの派遣を行うことができました。

派遣先数	契約金額	就業実人員	就業延人員
89件	115,661千円	255人	19,836人

③ 職業紹介事業

当センターはハローワークと同様に高齢者向けに職業紹介を行うことができます。企業等からの求人依頼を受け、センターが毎月発行する「お仕事情報」に求人情報を掲載しています。「有償の職業紹介」として運用できますが、より多くの求人がいただけるよう、現在のところ手数料率0%の「無償の職業紹介」としています。会員の皆様が在宅で高齢者向けの求人情報が閲覧できるメリットは大きいと考えています。

紹介依頼企業数	求人者数	応募者数	採用者数
33社	86人	82人	41人

(2) 収益事業

令和4年度収益事業（訪問介護事業等）の契約金額は、サービス利用者の施設入所等が重なったことから、対前年度比約2.6%の減額となりました。

しかしながら、大津市では、団塊の世代全員が後期高齢者となることで生じる様々な影響、いわゆる「2025年問題」が心配されている2025年（令和7年）には、要支援・要介護認定者数が17千人を超え、さらには2040年（令和22年）には28千人を超えると推計されています。訪問介護を希望される高齢者が今後増加していくことは明らかであり、これら高齢者のご期待に添えるよう当センターの訪問介護や総合事業の充実、発展を図ることが大切だと考えています。

区分	契約金額	就業実人員	就業延人員
訪問介護	58,754千円	88人	16,961人
総合事業	15,364千円	61人	4,873人
合計	74,118千円	88人	21,834人

(3) 高齢者活躍人材確保育成事業（受託事業）

社会の様々な分野でデジタル化が進む中、高齢者のデジタル格差を解消し、IT機器を使うために必要な知識・技能を得ることを目的に、「パソコン・スマホ研修」を10月～11月に計8日間実施しました。パソコンは、ワード、エクセルを用いて、自治会の案内文や決算書を作成することを演習テーマとしました。スマホ研修は、安心・安全な使用のためにアプリについて学んだ上で、地図アプリを利用した目的地検索や、写真の撮影、保存ができるようになることを目標に実施しました。昨年度に引き続き、定員を大幅に

超える受講申し込みをいただき、会員の皆様の関心の高さを窺うことができました。次年度も同様に研修会の開催を計画する予定です。

実施事業名：「地域ITサポート支援員」養成講座

開催回数	参加実人員	参加延人員
8回	20人	144人

講座内容	ワード研修	2回
	エクセル研修	3回
	スマホ研修	3回

3 重点事業の取組みについて

(1) 安全意識の高揚（安全・適正就業の推進）

令和4年度は重点事業として安全意識の高揚を掲げ、“事故ゼロ”を目指して以下のような取組みを推進してきましたが、結果的に全体で14件（傷害事故5件、賠償事故9件）の事故が発生しました。令和元年度以降、事故件数は減少していましたが（元年度21件、2年度17件、3年度10件）、4年度は増加に転じることとなりました。傷害事故では、6ヶ月以上の入院を要する重篤事故はなかったものの、転倒と蜂刺されによる事故が目立ちました。賠償事故では、除草作業中の飛石によるガラス等の破損に加えてくらしの便利屋で受注した大型ごみの搬出で賠償金額が高額となる事故が連続して発生しました。

事故件数の増加を受け、安全意識の高揚は、令和5年度も引き続き重点事業に位置付け、会員の意識啓発に加えて、養生の徹底やカラーコーンの設置および安全講習の実施等による安全管理体制の充実に取組むこととしています。令和4年度中に実施した取組みは次のとおりです。

① 職群班長会議における事故事例等の報告

職群班長会議で事故発生件数や事故事例を報告し、安全確保等の方策検討を行いました。

② 安全パトロールの実施

安全パトロールを「安全確認チェック表」に基づき実施しました。

○ 実施時期 令和4年7月

○ パトロール箇所 除草・剪定作業現場

③ 安全・適正就業推進大会の開催

安全意識の高揚を図るため安全・適正就業推進大会を開催しました。

○ 開催日時 令和5年3月17日（金）

午後1時30分～午後4時まで

○ 開催場所 大津市生涯学習センター

○ 参加人員 173名

④ 剪定・除草作業の安全確保

重篤事故につながる恐れがある剪定作業について、安全意識の高揚と安

全対策の強化を図るため、安全管理物品（殺虫剤、救急箱、安全作業看板等）の整備を行いました。

また、急な斜面での除草作業時の転落防止のため、ハーネス等の整備を行いました。

⑤ シルバー川柳の募集による安全意識の啓発

会員参加型の意識啓発事業として、会員対象に「安全就業」を基本テーマにしたシルバー会員川柳を広く募集しました。

選考委員会を開催し、最優秀賞1点、優秀賞3点を選出し、3月17日（金）に開催した安全・適正就業推進大会で表彰を行いました。

（2）分かち合い就業の推進

低迷する就業率の改善を図るため、「分かち合い就業推進委員会」（理事、班長および地域委員長で構成）を設置しました。委員会では、現状について意見交換を交わし、課題と今後の対応について議論を行いました。就業率の低迷には、様々な要因があると考えられることから、引き続き慎重に検討を重ねていくこととしています。

（3）「あなたのまちにシルバー会員」推進運動の実施

会員拡大の具体的目標として、市内の全町丁に会員が少なくとも1名以上在籍することを掲げ、地域委員会の協力を得て、自治会館規模の出張入会説明会を2地域で実施しました。開催前には、近隣自治会に各1,000枚の案内チラシを配布しました。結果は2ヶ所で計7名の参加があり、うち4名（男性1名、女性3名）の入会がありました。令和5年度においても、引き続き地域密着の身近な入会説明会を開催することにより、会員の拡大を図っていくこととしています。

- ・令和5年3月6日（月） 穴太町会議所（唐崎地域委員会）

参加者4名（男性1名、女性3名）、入会者2名（男性0名、女性2名）

- ・令和5年3月23日（木） 中ふれあいセンター（皇子山地域委員会）

参加者3名（男性1名、女性2名）、入会者2名（男性1名、女性1名）

（4）「お疲れさん、もう一踏ん張り」事業の実施

長年、当センターで生涯現役を実践されている会員を表彰するため、「表彰制度検討委員会」を設置し、当センターらしい表彰基準等の検討と既存の表彰規定の見直しを行いました。

- ・先進シルバー調査の実施

令和5年1月20日～2月3日 33センターを対象に実施

- ・表彰制度検討委員会の開催

第1回 令和5年3月9日（木）先進シルバー調査結果検討ほか

第2回 令和5年3月20日（月）表彰規定の見直しほか

理事会 令和5年3月21日（火）表彰規定の改定を承認

令和5年4月の「事務局からのお知らせ」で会員に周知を図るとともに、被推薦者を募集し、令和5年度定時総会で表彰を行うこととしました。

(5) 2025年問題対応調査検討

いわゆる「団塊の世代」と言われる800万人全員が後期高齢者となることで、様々な影響が生じるとされている「2025年問題」に対応するため、福祉部会において、訪問介護サービスや生活支援サービスの適切な対応について調査検討を続けています。(6月・8月・10月・12月・2月)

令和5年度は、対応策の一つとして、大津市の補助を受け、介護分野就業機会促進事業を実施することとしました。この事業は、介護事業所で働く介護福祉士等専門職員の多岐に渡る業務を、資格が必要な業務とそれ以外の業務に切り分け、資格を必要としない業務をシルバー会員が担うことで、専門職員の負担の軽減と介護福祉事業の量的確保、質的向上を図ろうとするもので、介護事業所の円滑な運営と会員の就業機会の拡大が期待されます。

4 その他事業の取組みについて

(1) 会員数の拡大

令和4年度末の会員数は前年度末より22名増加し1,654名となりました。入会を促進するため、多様な入会説明会の開催のほか、各種広報により、シルバー人材センターの活動内容をPRしました。

① 入会説明会の開催

ア 入会説明会および出張入会説明会の開催等

1人でも多くの市民の皆さんにご参加いただけるよう大津市役所中央公民館で行う「一般入会説明会」に加えて、瀬田東公民館、堅田公民館、晴嵐公民館、木戸公民館および南郷公民館の5ヶ所で「出張入会説明会」を開催しました。また、ホームページを活用した随時入会を推奨しました。

「あなたのまちにシルバー会員」推進運動の具体策として、2地域で自治会館規模のプチ出張入会説明会を実施しました。

イ 「Make 2nd Life 2022 入会説明会」の開催

ランチ大津京で、3回目となる「Make 2nd Life 2022 入会説明会」を開催しました。商業複合施設を会場とすることでシルバー人材センターの認知度向上を図りました。併せて、活動状況を紹介するパネル展示や木工おもちゃなどを販売する会員手づくり市を開催したほか、おちょこ苔玉を作るワークショップを開催しました。会員手づくり市への参加は会員に広く呼び掛け実施しました。

開催日 令和4年9月24日(土)・25日(日)

場所 ブランチ大津京(大津びわこ競輪場跡地)

入会説明会参加者 48名

会員手づくり市への参加 6店舗

会員手づくり市の売上げ 169,400 円

入会説明会の区分	開催回数	参加者数	入会者数	備考
一般入会説明会	21 回	239 人	184 人	
出張入会説明会	5 回	64 人	44 人	瀬田東・堅田・晴風・木戸・南郷
Make2ndLife 入会説明会	4 回	48 人	16 人	2 日間開催
随時入会	—	14 人	14 人	
プチ出張入会説明会	2 回	7 人	4 人	穴太町会議所、中ふれあいセンター
合 計	32 回	372 人	262 人	

② 広報活動

ア ホームページによるセンターの周知

センターのホームページを随時更新し、センターの実施事業等の周知を図りました。令和4年度のホームページ閲覧回数は延 235,092 回です。

イ 新聞折込チラシの全戸配布

「Make 2nd Life 2022 入会説明会」の開催に合わせ、開催の告知とシルバー人材センターの認知度向上を図るため新聞折込によるチラシの全戸配布を行いました。

- 実施日 令和4年9月18日（日）
- 配布部数 93,100 部（以下5紙の新聞購読世帯へ配布）
朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・日経新聞・産経新聞

ウ 広報用パンフレット、チラシ等の配布

- 広報用パンフレット（入会説明会開催案内や機関紙等）を大津市の協力を得て市内各支所および大津市役所新館市民ロビーに配架しました。
- 出張入会説明会の開催に合わせ、開催告知とセンター広報を兼ねたチラシを作成し、会場周辺にポスティングしました。ポスティングは地域委員会に協力を依頼しました。

エ 女性会員向けセミナーの開催

女性会員の拡大を目的に女性に歓迎されるセミナーの開催で、口コミによる女性会員の拡大を図りました。

- セミナー名 手芸教室「羊毛フェルトで干支飾りをつくろう」
- 開催日 令和4年12月14日（水）
- 参加者 18 名

(2) 就業機会の拡大

① 入札参加資格の取得

大津市および滋賀県からの受注の拡大を図るため、入札参加資格を取得しました。

② 営業活動の実施

新型コロナウイルスの感染拡大により、例年実施している個別訪問型の営業活動は自粛しました。なお、感染拡大の状況を見ながら、随時に大口顧客および大津市に営業活動を行いました。

③ 一般競争入札の参加

滋賀県が実施した2件の事務補助に係る一般競争入札（派遣）を、前年度に引き続き落札することができました。一方、独立行政法人地域医療機能推進機構滋賀病院の実施した除草業務に係る一般競争入札（請負）は落札できませんでした。

④ 大津市への要望活動の実施

令和5年10月31日（月）に大津市に要望書を提出しました。要望書では、多様な形態による就業機会の提供、作業スペースの確保および事務所の移転について等6項目を要望しました。大津市からは、各部局にシルバーへの発注が促進されるよう文書を発出している等と回答をいただきました。

(3) 就業率の向上について

就業率の向上を図るため、新規業務の獲得や大津市からの大口受注の獲得に取り組みましたが、令和4年度の実業率率は61.2%で、令和3年度の61.7%をさらに0.5ポイント下回る結果となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で就業が減少した令和2年度の実業率率(66.9%)と比較しても5.7ポイント下回っており、中長期経営事業計画の数値目標(76.8%)と比べると15.6ポイント下回り大きく乖離している状況です。

就業率の向上には多様な就業機会の確保のほか、分かち合い就業の推進等様々な課題があることから、分かち合い就業推進委員会を中心に抜本的な検討を行うこととしています。

(4) 収益事業（訪問介護事業等）の推進

令和2年度に取りまとめた「訪問介護事業見直し検討結果報告書」に基づき、5つの改善方策（会員の確保、育成、サービスの充実、処遇および会員間の交流推進）に取り組みましたが、要介護度の高い利用者の施設入所等が重なり、訪問介護と総合事業を合わせた実績額は前年度を下回ることでなりました。

① ヘルパー就業会員の処遇改善について

おむつ交換や更衣介助など需要が高い短時間の身体介護の配分金単価を7月から引き上げることで、就業会員の処遇改善を図りました。

② ヘルパー資格を有する会員の確保と育成等

福祉部会において2025年問題への対応を検討する中で、ヘルパー資格を有する会員の確保について対策を検討しました。その一つとして、ヘルパー会員の処遇改善を目的に最低賃金の引き上げに対応する7%程度の配分金改定を令和5年4月より実施することとしました。また、交通費については、これまで往復「3km未満不支給」としていたところを「2km不支給」としました。

(5) 配分金基本単価の見直し

毎年10月に見直される最低賃金について、政府は「できる限り早期に全

国加重平均が1,000円以上となることを目指し、引上げに取り組む」こととしており、滋賀県でも今後3年間程度は、毎年約30円ずつ最低賃金が引き上げられることが予想されます。請負に適用される配分金基本単価は、最低賃金を確保するものではありませんが、配分金基本単価が最低賃金を下回ることは、会員の就業意欲の減退を招く恐れがあり、また、令和元年10月から基本単価を据え置いていたこともあり、令和5年4月から現行の配分金基本単価930円を1,000円に引き上げることとしました。このことによる受注の減少が心配されましたが、事前に実施した発注者への契約更新の意向調査では、大方の発注者からご理解をいただくことができました。

(6) インボイス制度の導入に伴う事務比率の引き上げ

令和5年10月から消費税に適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入されます。この制度が導入されると、センターが免税事業者である会員に支払う配分金に含まれる消費税額分について、センターで仕入税額控除を行うことができず、センターが負担することとなります。また、世界的な物価の上昇が続く中、センターの諸経費についても上昇していくことが予想されます。これら財源を捻出するため、仕入税額相当額の80%まで税額控除ができる期間（概ね令和7年度末まで）については、事務比率を10%から12%に引き上げ、令和5年4月から実施することとし、1月理事会で承認を得ました。

(7) 中長期経営事業計画の検証と見直しについて

超高齢社会が進行する中で、当センターが「自主・自立、共働・共助」を基本に、より一層その職責を果たし、地域社会に貢献していけるよう、平成30年度に「中長期経営事業計画」（以下「計画」という。）を策定しました。計画の進捗管理を行うため「進行管理委員会」を設置していますが、令和3年度および4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、委員会を開催することができませんでした。令和5年度は、次期中長期経営事業計画の策定に向けた準備作業に入る必要があることから、委員会を開催し、事業の実施状況等を検証していきたいと考えています。

(8) 地域社会への貢献

14の地域委員会では会員相互の連携・親睦を深めることを目的に、幹事会、ボランティア活動および親睦事業等が開催、実施されました。

① 地域ボランティア活動

- 実施回数 72回
- 参加延人員 703人

ボランティアの内容	実施回数	参加延人員
J R 駅前花壇の花苗植栽	4回	24人

スクールガード	13回	46人
神社の清掃	10回	225人
幼稚園、小学校等の窓ふき等清掃と昔遊びの継承	10回	59人
その他（公園の清掃、置き傘の補充等）	35回	349人

② 「シルバー環境美化の日」（全国のシルバー人材センターが一斉に実施）

実施日 令和4年10月11日（火）・12日（水）・13日（木）

参加人員 146名

（9）研修会等の実施

① 会員講師による講習会の開催

会員が講師を務める「シルバーカルチャー講座」を開催しました。豊富な知識や特技あるいは体験を語られる内容で、講座の運営は参加者の負担金で賄われました。知識と趣味を広げられるとともに会員相互の親睦が図られました。8講座（全12回）を開催し、延べ55名の会員が参加されました。

② その他研修会の実施

研修名	開催回数	参加人員	備考
刈払機の使用方法和安全対策	1回	17人	膳所班実施
松の剪定講習会	1回	30人	南郷水産センター
表装表具具能講習会	1回	14人	障子1日・網戸1日・襖2日 合計4日
介護技術講習会	7回	66人	「心に寄り添う傾聴講習」ほか
福祉・新人研修	12回	53人	接遇・個人情報の取扱い等
スマホ講習会	1回	20人	アプリを安心して使おう

（詳細は各種会議行事等参照）

（10）会員相互の親睦の確保

会員相互の親睦を図ることは、当センターのコンセプト「人生100年！！笑って生きる」につながります。会員募集も兼ねて平成30年から実施している「グラウンドゴルフ大会」等を開催することができました。

① グラウンドゴルフ大会

○ 開催日 令和4年11月18日（金）

○ 開催場所 皇子山総合運動公園陸上競技場

○ 参加人員 136名（うち会員54名、一般82名）

② 写真クラブ

当センターでは高齢者の就業確保に留まらず、会員の趣味・特技を応援するシルバーを目指すことも目標の一つとしています。

定時総会および「Make 2nd Life 2022 入会説明会」で写真展示会を開催したほか、びわ湖テラス、毘沙門堂門跡および石山寺等合計4回の撮影会を開催し、撮影した作品を持ち寄る作品交流会を坂本作業所で開催しました。

③ しろがねコーラス

新型コロナウイルス感染症の影響により活動を自粛していましたが、感染予防対策の緩和に伴い、月2回程度の練習を再開しました。

④ 会員親睦旅行

会員拡大を目的に会員に限定することなく募集している会員親睦旅行は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、やむを得ず延期していた令和3年度催行分と合わせて2回の旅行を実施しました。

【延期していた令和3年度親睦旅行】

開催日 令和4年10月20日（木）

旅行先 越前そばの里・タケフナイフビレッジほか

参加人員 39名

【令和4年度親睦旅行】

開催日 令和5年2月22日（水）

旅行先 湯浅醤油工場・道成寺・和歌山マリーナシティ黒潮市場

参加人員 68名

5 センターの役員会議等の開催について

新型コロナウイルス感染症に留意しながらではありましたが、「自主・自立」、「共働・共助」の理念のもと、熱心な検討をいただきました。

会議名	開催回数	所属役員数
理事会	6回	17名
執行役員会議	6回	3名
事業部会	1回	4名
福祉部会	6回	7名
地域委員長会議	6回	16名
広報委員会	10回	8名
分かち合い就業推進委員会	1回	6名
表彰制度検討委員会	2回	5名
除草班長会議	6回	14名
剪定班長会議	5回	6名

(詳細は各種会議行事等参照)